

本学におけるアクティブ・ラーニング実施状況についての調査報告（平成30年度実施）

1 調査の目的

アクティブ・ラーニングの要素をもつ授業が、本学でどの程度実施されているのかを把握することを目的として、FD推進委員会のもとでWeb調査を実施した。この調査は、平成30年度年度計画02、05で示された「アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充に取り組む。」に基づいてなされたものであり、平成28年度に実施した調査と同様の内容、方法により実施した。

2 調査方法

Web調査により、各教員に平成30年度の主担当授業科目について回答するよう求めた。

3 調査期間

平成31年1月31日（木）～2月21日（水）

4 調査対象

本学専任の授業担当教員を調査対象とした。回答数は、学部143科目、修士95科目、専門職65科目の計303科目である。回答率は43.3%であった。

5 結果

（1）項目別集計

11の質問項目を設け、それぞれについて、「はい」、「いいえ」で回答を求めた。集計結果は、表1に示す通りである。「1. 聴く以上の関わり」は9割以上の授業でなされており、「5. 活動する過程で書いたり、話したり、発表する」こと、「9. 対話的な学び」、「3. 高次の思考」、「4. 授業の中の活動」は8割以上の授業でなされている。「11. 学習活動を振り返り次につなげる」こと、「7. 問題発見・解決ができるような授業」、「2. スキル育成」は7割以上の授業でなされている。「8. 他者と協同する課題の設定」、「10. 見通しを持って粘り強く取り組めるようにすること」、「6. 自身の価値観の探究」が6割以上である。全体的な傾向として、2016年度と比較して顕著な差は認められなかった。

表1 項目別集計

質問項目	はい			いいえ		
	2018		2016	2018		2016
	件数	%	%	件数	%	%
1. 学生に聴く以上の関わりをすることを求めている。	280	92.4	94.7	23	7.6	5.3
2. 情報伝達よりも学生のスキル育成に重きを置いている。	220	72.6	68.2	83	27.4	31.8
3. 学生に高次の思考（分析，総合，評価）を促すようにしている。	251	82.8	81.8	52	17.2	18.2
4. 学生が活動する授業をしている。	246	81.2	82.1	57	18.8	17.9
5. 学生が活動する過程で考えたことを，書いたり，話したり，発表したりする授業をしている。	256	84.5	83.1	47	15.5	16.9
6. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きを置いている。	202	66.7	65.7	101	33.3	34.3
7. 学生が問題発見・解決できるような授業にしている。	232	76.6	78.5	71	23.4	21.5
8. 学生が他者と協働する課題を設けている。	210	69.3	62.9	93	30.7	37.1
9. 学生が自らの考えを広げ深める対話的な学びができるようにしている。	255	84.2	80.6	48	15.8	19.4
10. 学生が見通しを持って粘り強く取組めるようにしている。	210	69.3	69.2	93	30.7	30.8
11. 学生が自らの学習活動を振り返り次につなげられるようにしている。	242	79.9	79.5	61	20.1	20.5

(2) 授業属性別にみた違い

表2-1 から表2-3 は、授業規模、授業区分、授業方法別に、質問項目に対する回答を集計したものである。

授業規模別（表2-1）で見ると、概して授業規模の小さい30以下のクラスで、「1. 聴く以上の関わり」や「9. 対話的な学び」、「5. 活動する過程で書いたり、話したり、発表すること」がなされていると言える。肯定率の平均値を算出してみると、「～30人」と「31～81人」ではそれぞれ、78.6%、78.9%とほぼ同じであり、69.3%の「81人～」に比べて高い。「81人～」の肯定率の平均値は他の2群に比べれば低いが、2016年度に比べると大きく上昇している。また、「81人～」において、2016年度には肯定率が50%に満たない項目もあったが、2018年度になると、そのような項目は一つもなかった。

学部・修士・専門職という授業区分別（表2-2）で見ると、専門職学位課程の授業の中で、「1. 聴く以上の関わり」、「9. 対話的な学び」、「5. 活動する過程で書いたり、話したり、発表すること」、「4. 授業の中での活動」、「8. 他者と協働する課題の設定」、「11. 学習活動を振り返り次につなげること」がより多くなされていると言える。肯定率の平均値は、「学部」「修士」「専門職」の順で高くなる傾向が認められ、この傾向は2016年度と同様だが、その差は大きなものではなかった。授業区分ごとの肯定率の差の平均値を算出してみると、「学部」で-0.6%、「修士」で3.3%、「専門職」で-2.2%であった。

授業方法別（表2-3）で見ると、演習では、「1. 聴く以上の関わり」、「4. 授業の中での活動」、「5. 活動する過程で書いたり、話したり、発表すること」、「9. 対話的な学び」、の実施率が高く、実験・

実習・実技では、「4. 授業の中での活動」、「7. 問題発見・解決」の実施率が高い。また、算出した肯定率の平均値と標準偏差から次のような結果が示唆される。まず、2018 年度の結果について、「演習」「講義・演習」「実験・実習・実技」では、85%以上の授業で項目に示された内容が展開されていることが示された。しかし、「講義」の肯定率の平均値は、他の3群より低く、60%程度に留まっていた。肯定率の標準偏差をみると、「講義」「演習」「講義・演習」で概ね小さくなる傾向が認められたのに対し、「実験・実習・実技」では大きくなる傾向にあった。

表2－1 授業規模別集計

質問項目	授業規模								
	～30人			31～80人			81人～		
	2018		2016	2018		2016	2018		2016
	件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%
1. 学生に聴く以上の関わりをすることを求めている。	225	93.4	97.0	42	91.3	90.8	13	81.3	68.8
2. 情報伝達よりも学生のスキル育成に重きを置いている。	179	74.3	72.4	31	67.4	59.2	10	62.5	31.3
3. 学生に高次の思考（分析，総合，評価）を促すようにしている。	199	82.6	82.2	39	84.8	84.2	13	81.3	62.5
4. 学生が活動する授業をしている。	198	82.2	85.9	37	80.4	76.3	11	68.8	37.5
5. 学生が活動する過程で考えたことを，書いたり，話したり，発表したりする授業をしている。	204	84.6	85.6	39	84.8	77.6	13	81.3	56.3
6. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きを置いている。	164	68.0	65.8	29	63.0	71.1	9	56.3	37.5
7. 学生が問題発見・解決できるような授業にしている。	181	75.1	78.6	40	87.0	80.3	11	68.8	68.8
8. 学生が他者と協働する課題を設けている。	165	68.5	62.8	36	78.3	69.7	9	56.3	31.3
9. 学生が自らの考えを広げ深める対話的な学びができるようにしている。	208	86.3	84.2	37	80.4	73.7	10	62.5	43.8
10. 学生が見通しを持って粘り強く取組めるようにしている。	167	69.3	72.4	34	73.9	61.8	9	56.3	43.8
11. 学生が自らの学習活動を振り返り次につなげられるようにしている。	193	80.1	80.9	35	76.1	77.6	14	87.5	62.5

表2－2 授業区分別集計

質問項目	授業区分								
	学部			修士			専門職		
	2018		2016	2018		2016	2018		2016
	件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%
1. 学生に聴く以上の関わりをすることを求めている。	132	92.3	92.4	87	91.6	95.8	61	93.8	100.0
2. 情報伝達よりも学生のスキル育成に重きを置いている。	103	72.0	69.2	64	67.4	62.7	53	81.5	78.6
3. 学生に高次の思考（分析，総合，評価）を促すようにしている。	113	79.0	77.8	82	86.3	82.4	56	86.2	94.6
4. 学生が活動する授業をしている。	110	76.9	80.3	77	81.1	80.3	59	90.8	92.9
5. 学生が活動する過程で考えたことを，書いたり，話したり，発表したりする授業をしている。	118	82.5	81.8	78	82.1	80.3	60	92.3	94.6
6. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きを置いている。	78	54.5	56.1	70	73.7	71.8	54	83.1	83.9
7. 学生が問題発見・解決できるような授業にしている。	108	75.5	77.3	75	78.9	77.5	49	75.4	85.7
8. 学生が他者と協働する課題を設けている。	90	62.9	64.6	63	66.3	53.5	57	87.7	80.4
9. 学生が自らの考えを広げ深める対話的な学びができるようにしている。	109	76.2	75.8	85	89.5	82.4	61	93.8	92.9
10. 学生が見通しを持って粘り強く取組めるようにしている。	91	63.6	69.2	74	77.9	69.7	45	69.2	67.9
11. 学生が自らの学習活動を振り返り次につなげられるようにしている。	109	76.2	73.7	76	80.0	81.7	57	87.7	94.6

表2-3 授業方法別集計

質問項目	授業方法											
	講義			演習			講義・演習			実験・実習・実技		
	2018		2016	2018		2016	2018		2016	2018		2016
	件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%
1. 学生に聴く以上の関わりをすることを求めている。	90	82.6	90.2	57	100.0	96.0	115	97.5	98.5	18	94.7	95.7
2. 情報伝達よりも学生のスキル育成に重きを置いている。	57	52.3	39.9	52	91.2	98.0	94	79.7	72.3	17	89.5	91.3
3. 学生に高次の思考（分析，総合，評価）を促すようにしている。	76	69.7	81.8	52	91.2	82.0	107	90.7	81.5	16	84.2	82.6
4. 学生が活動する授業をしている。	71	65.1	60.8	56	98.2	98.0	100	84.7	90.8	19	100.0	95.7
5. 学生が活動する過程で考えたことを、書いたり、話したり、発表したりする授業をしている。	71	65.1	66.4	55	96.5	95.0	112	94.9	91.5	18	94.7	87.0
6. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きを置いている。	59	54.1	62.2	41	71.9	70.0	88	74.6	63.8	14	73.7	78.3
7. 学生が問題発見・解決できるような授業にしている。	65	59.6	69.2	51	89.5	83.0	97	82.2	82.3	19	100.0	95.7
8. 学生が他者と協働する課題を設けている。	56	51.4	49.0	45	78.9	78.0	96	81.4	63.8	13	68.4	78.3
9. 学生が自らの考えを広げ深める対話的な学びができるようにしている。	74	67.9	67.1	54	94.7	87.0	112	94.9	88.5	15	78.9	91.3
10. 学生が見通しを持って粘り強く取り組めるようにしている。	56	51.4	62.9	42	73.7	72.0	94	79.7	70.0	18	94.7	91.3
11. 学生が自らの学習活動を振り返り次につなげられるようにしている。	75	68.8	74.8	46	80.7	85.0	103	87.3	78.5	18	94.7	91.3

(3) 授業に取り入れている形態と今後取り入れたい形態

表3-1 から表3-3 は、現在授業に取り入れているアクティブ・ラーニングの形態を尋ねたものである。

授業規模別（表3-1）で見ると、取り入れられている形態は、項目によって大きく異なる。たとえば、「振り返り」「グループワーク」は、授業規模にかかわらず比較的に取り入れられている。「学生によるプレゼンテーション」は、「～30人」「31～80人」ではわりと取り入れられているものの、「81人～」になると、その割合はかなり低下する。こうした傾向は、2016年度にもみられたものであり、2016年度からの肯定率の差を算出してみると、いずれの授業規模においても「PBL」の低下傾向が目立つ（「～30人」で-14.6ポイント、「31～80人」で-16.8ポイント、「81人～」で-12.5ポイント）。

授業区分別（表3-2）で見ると、「グループワーク」「学生によるプレゼンテーション」「振り返り」は、授業区分にかかわらず比較的に取り入れられている。この傾向は2016年度から変化していない。ただしその割合は、「専門職」で70%を超え、「学部」「修士」を大きく上回っている。2018年度は、「反転授業」を除くすべての項目において、「学部」「修士」よりも「専門職」のほうが取り入れられている割合が高い。2016年度との差を算出してみると、授業区分にかかわらず、「PBL」の低下が著しい（「学部」で-16.4ポイント、「修士」で-12.3ポイント、「専門職」で-22.1ポイント）。

授業方法別（表3-3）で見ると、「グループワーク」「学生によるプレゼンテーション」「振り返り」は、授業方法にかかわらず、他の項目に比べて取り入れられている割合が高い。この傾向は2016年

度とほぼ同じである。2016年度からの変化については、「演習」で「ディベート」の割合が増加。
「演習」「実験・実習・実技」において「PBL」の低下が目立つ（「演習」で-24.0ポイント、「実験・実習・実技」で-46.9ポイント）。

表3-1 現在、授業に取り入れている形態（授業規模別）

形態		授業規模								
		～30人			31～80人			81人～		
		2018		2016	2018		2016	2018		2016
		件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%
1.	反転授業	14	5.8	6.6	4	8.7	6.6	1	6.3	0.0
2.	P B L	17	7.1	21.7	2	4.3	21.1	0	0.0	12.5
3.	グループワーク	148	61.4	53.3	36	78.3	64.5	7	43.8	31.3
4.	ロールプレイ	41	17.0	14.5	11	23.9	11.8	1	6.3	6.3
5.	ディベート	45	18.7	15.1	5	10.9	9.2	0	0.0	6.3
6.	フィールドワーク	25	10.4	9.9	2	4.3	1.3	0	0.0	0.0
7.	学生によるプレゼンテーション	159	66.0	58.2	26	56.5	36.8	2	12.5	6.3
8.	振り返り	132	54.8	46.1	29	63.0	60.5	11	68.8	56.3
9.	その他	16	6.6	10.5	2	4.3	6.6	1	6.3	6.3

表3-2 現在、授業に取り入れている形態（授業区分別）

形態		授業区分								
		学部			修士			専門職		
		2018		2016	2018		2016	2018		2016
		件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%
1.	反転授業	9	6.3	5.1	6	6.3	6.3	4	6.2	10.7
2.	P B L	4	2.8	19.2	5	5.3	17.6	10	15.4	37.5
3.	グループワーク	81	56.6	54.0	53	55.8	48.6	57	87.7	71.4
4.	ロールプレイ	23	16.1	15.2	14	14.7	12.7	16	24.6	10.7
5.	ディベート	15	10.5	10.1	19	20.0	13.4	16	24.6	26.8
6.	フィールドワーク	8	5.6	4.0	7	7.4	10.6	12	18.5	14.3
7.	学生によるプレゼンテーション	80	55.9	51.0	57	60.0	45.8	50	76.9	71.4
8.	振り返り	78	54.5	46	47	49.5	43.7	47	72.3	75
9.	その他	7	4.9	8.6	6	6.3	10.6	6	9.2	10.7

表3-3 現在、授業に取り入れている形態（授業方法別）

形態		授業方法											
		講義			演習			講義・演習			実験・実習・実技		
		2018		2016	2018		2016	2018		2016	2018		2016
件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%		
1.	反転授業	9	8.3	7.0	2	3.5	6.0	7	5.9	6.9	1	5.3	0.0
2.	P B L	9	8.3	11.2	4	7.0	31.0	5	4.2	19.2	1	5.3	52.2
3.	グループワーク	55	50.5	42.0	39	68.4	69.0	87	73.7	56.2	10	52.6	60.9
4.	ロールプレイ	8	7.3	8.4	17	29.8	26.0	26	22.0	10.8	2	10.5	8.7
5.	ディベート	19	17.4	11.2	22	38.6	18.0	8	6.8	11.5	1	5.3	21.7
6.	フィールドワーク	6	5.5	7.7	7	12.3	11.0	13	11.0	6.2	1	5.3	4.3
7.	学生によるプレゼンテーション	47	43.1	31.5	47	82.5	70.0	82	69.5	56.9	11	57.9	73.9
8.	振り返り	54	49.5	49	32	56.1	52.0	76	64.4	47.7	10	52.6	47.8
9.	その他	4	3.7	2.8	2	3.5	19.0	13	11.0	10.8	0	0.0	4.3

表4-1から表4-3は、今後授業に取り入れたいアクティブ・ラーニングの形態を示したものである。全体としては、「2. P B L」という回答が全体の56科目からあがっており、2016年度同様、Problem/Project-Based Learningに期待する向きがある。

授業規模別（表4-1）で見ると、2016年度と2018年度で結果に違いが認められる。2016年度では、「～30人」で「PBL」と「ディベート」が、「31～80人」で「PBL」が、「81人～」で「反転授業」「その他」が、それぞれ選択される傾向にあった。ところが、2018年度になると、その傾向は認められなくなり、授業規模にかかわらず「反転授業」「PBL」「ディベート」が選択されている。

授業区分別（表4-2）で見ると、2018年度において、「学部」「修士」よりも「専門職」のほうが、ほとんどすべての項目で選択する割合が高い傾向にあった。2016年度から変化した点として、「PBL」を選択した割合が「学部」「修士」では減少した一方で「専門職」では上昇した。

授業方法別（表4-3）で見ると、2018年度において、授業方法によって選択される項目が異なる傾向にあった。たとえば、「講義」では「PBL」と「ディベート」が、「演習」では「PBL」と「反転授業」が、「講義・演習」では「PBL」が、「実験・実習・実技」では「反転授業」が、比較的に選択されていた。その傾向は、「講義」「講義・演習」「実験・実習・実技」では2016年度においてもみられたものだが、「演習」ではやや様相を異にしていた。

表4－1 今後、取り入れたい形態（授業規模別）

形態		授業規模								
		～30人			31～80人			81人～		
		2018		2016	2018		2016	2018		2016
		件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%
1.	反転授業	30	12.4	7.6	8	17.4	2.8	2	12.5	19.6
2.	P B L	45	18.7	18.1	9	19.6	31.6	2	12.5	0.0
3.	ロールプレイ	11	4.6	7.6	4	8.7	5.3	0	0.0	0.0
4.	ディベート	28	11.6	12.2	6	13.0	10.5	2	12.5	6.3
5.	その他	3	1.2	0.7	0	0.0	5.3	0	0.0	18.8

表4－2 今後、取り入れたい形態（授業区分別）

形態		授業区分								
		学部			修士			専門職		
		2018		2016	2018		2016	2018		2016
		件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%
1.	反転授業	17	11.9	7.6	13	13.7	2.8	10	15.4	19.6
2.	P B L	22	15.4	21.7	11	11.6	16.2	23	35.4	25.0
3.	ロールプレイ	5	3.5	8.1	4	4.2	4.9	6	9.2	7.1
4.	ディベート	12	8.4	10.1	11	11.6	9.9	13	20.0	21.4
5.	その他	1	0.7	1.5	1	1.1	1.4	1	1.5	7.1

表4－3 今後、取り入れたい形態（授業方法別）

形態		授業方法											
		講義			演習			講義・演習			実験・実習・実技		
		2018		2016	2018		2016	2018		2016	2018		2016
		件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%	件数	%	%
1.	反転授業	14	12.8	4.9	11	19.3	8.0	9	7.6	9.2	6	31.6	13.0
2.	P B L	21	19.3	22.4	14	24.6	21.0	20	16.9	20.8	1	5.3	0.0
3.	ロールプレイ	8	7.3	4.2	4	7.0	13.0	3	2.5	6.2	0	0.0	0.0
4.	ディベート	20	18.3	10.5	5	8.8	23.0	9	7.6	5.4	2	10.5	4.3
5.	その他	0	0.0	2.8	1	1.8	1.0	2	1.7	3.1	0	0.0	0.0